

2023年（令和五年） 12月1日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

## ■ 概況

11/16～11/22のNYMEX・WTI先物市場は72.90～77.77ドルの範囲で推移した。

11月23日は、感謝祭の休日につき休場。

週末24日は、26日開催予定のOPECプラス会合30日延期に関連し、ナイジェリア・アンゴラが2024年からの割当枠に難色を示し、調整に動いたサウジと両国が合意に近づいているとの報道があったが、依然、先行き不透明感から、3営業日続落した。1月物終値は同1.56ドル安の75.54ドル。

週明け27日は、30日のOPECプラス会合に向け様子見ムードの強い中、ナイジェリア・アンゴラとサウジの調整が難航との報道があり、先行き不透明感から、4営業日続落した。1月物終値は前日比0.68ドル安の74.86ドル。

28日は、米国連邦準備理事会(FRB)幹部が、金利引き上げの停止・利下げの可能性を発言したことで、景気停滞感が後退、昨日までの4営業日続落の反動、安値拾いの買いもあり、反発した。ただ、OPECプラスの調整難航・開催再延期の観測もあり、上値は重かった。1月物終値は、前日比1.55ドル高の76.41ドル。

29日は、30日のOPECプラス会合で、追加減産を行うとの観測で、続伸した。また、黒海付近での荒天で、カザフスタンやロシアの石油出荷に障害が出るのではないかと観測も上昇要因。先週末の米国原油在庫が予想以上の積み増しとなったことは、上値を抑えた。1月物終値は前日比1.45ドル高の77.86ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は、11月16日～22日の間、81.90～83.70ドルの範囲で推移。11月24日83.30ド

ル、27日83.30ドル、28日83.20ドル、29日83.60ドル。

対ドル為替レート(TTM)は、11月16日～22日の間、148.18～151.34円の範囲で推移。11月24日149.63円、27日149.52円、28日148.15円、29日146.94円。

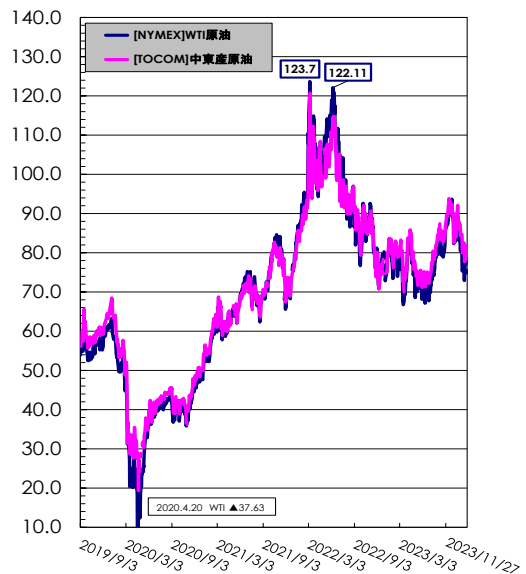
財務省が11月29日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、11月上旬の原油輸入平均CIF価格は88,832円で前旬比131円高、ドル建て94.80ドルで前旬比0.29ドル高、為替レートは1ドル/148.97円。

そのような中で、11月27日時点の価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油は同0.4円の値上がり、灯油は同3円の値上がり(18リットルベース)。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油は4週連続の値上がり、灯油は12週ぶりの値上がり、ガソリンの全国平均価格は174.0円となった。

11月30日～12月6日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は21.9円(補助金がない場合の次週予想価格196.7円、従来の基準価格168円から高補助率適用価格185円までの17円部分は60%支給で10.2円、185円を超える部分は100%支給で11.7円の計21.9円)となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/19～11/25	2,680 ▲51	▼-
	トッパー稼働率 (%)	"	74.5 ▲1.4	▼-
	原油在庫量 (千kl)	11/25	10,970 ▼-128	▲-
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/27	79.23 ▼-1.78	▲5.5
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/27	74.86 ▼-2.74	▼-2.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月上旬	94.80 ▲0.29	▼-5.66
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	88,832 ▲131	▼-3,587
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	148.97 ▲0.26	▼-2.72
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/27	150.52 ▲0.43	▼-10.42

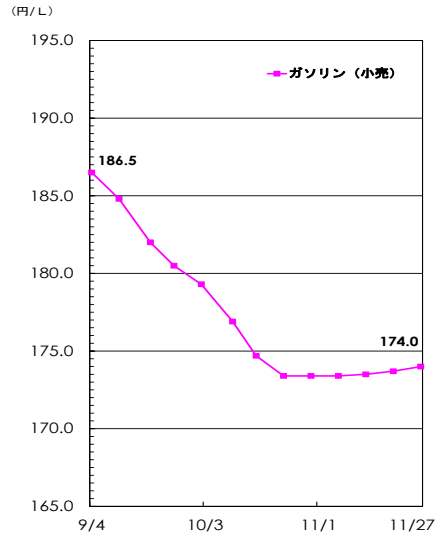
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/19 ~ 11/25	813 ▲ 20	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	745 ▲ 16	▲ -	
	輸出	"	64 ▼ -97	▼ -	
	在庫	11/25	1,650 ▲ 5	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/21 ~ 11/27	77.9 ▲ 0.6	▲ 3.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/21 ~ 11/27	79.0 ➡ 0.0	▲ 2.0
		(TOCOM/中部)	11/27	79.0 ➡ 0.0	▲ 4.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/27	174.0 ▲ 0.3	▲ 6.4	

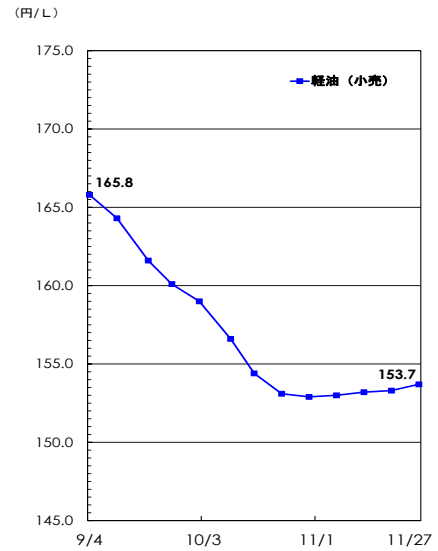
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

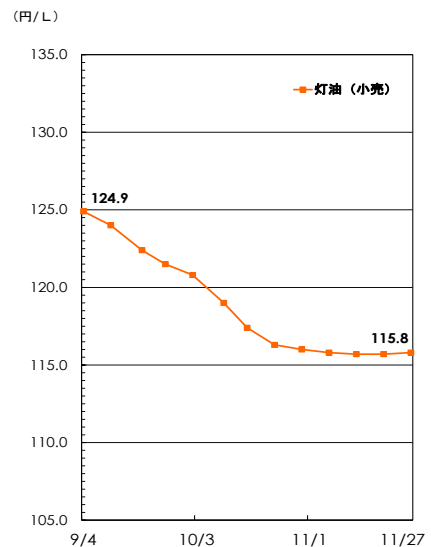
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/19 ~ 11/25	699 ▲ 52	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	589 ▲ 45	▲ -	
	輸出	"	167 ▲ 115	▲ -	
	在庫	11/25	1,328 ▼ -56	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/21 ~ 11/27	78.0 ▲ 0.6	▲ 1.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/21 ~ 11/27	79.5 ▼ -0.3	▲ 3.4
		(TOCOM/中部)	11/27	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/27	153.7 ▲ 0.4	▲ 5.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/19 ~ 11/25	216 ▼ -40	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	288 ▼ -46	▲ -	
	輸出	"	40 ▼ -10	▼ -	
	在庫	11/25	2,951 ▼ -112	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/21 ~ 11/27	79.7 ▲ 1.3	▲ 3.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/21 ~ 11/27	78.0 ➡ 0.0	▼ -2.0
		(TOCOM/中部)	11/27	80.0 ▼ -2.0	▲ 1.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/27	115.8 ▲ 0.1	▲ 4.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(11月23日~29日)のWTI石油先物市場は、26日開催予定のOPECプラス会合が30日に延期される中、24日は先行き不透明感から、3営業日続落の75.54ドルで始まったが、OPECプラス内のアルジェリア・アンゴラとサウジの対立報道で、週明け27日は4営業日続落、28日は景気懸念の後退・昨日までの反動で反発、29日はOPECプラスの追加減産観測で続伸、77.86ドルで終わった。

11月29日発表の24日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油在庫が前週比160万バレル増と市場予想(90万バレル減)に反する積み増し、ガソリン在庫は同180万バレル増で、中間留分在庫も同520

万増と予想を上回る積み増しであった。

EIAによると、11月27日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比5.1セント安の1ガロン3.238ドル(128.6円/ℓ)と10週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比6.3セント安と5週連続の値下がりの1ガロン4.146ドル(164.7円/ℓ)。

ベーカー・ヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、11月22日時点で、前週比横ばいの500基と4週ぶりに増加が止まった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年11月19日~11月25日に休止したトッパー能力は32.1万バレル/日で、前週に対して11.0万バレル/日減少した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は268.0万klと、前週に比べ5.1万kl増加。前年に対しては32.9万klの減少。トッパー稼働率は74.5%と前週に対して1.4ポイントの増加、前年に対しては6.7ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.6%増、ジェット/21.1%増、灯油/15.7%減、軽油/8.1%増、A重油/4.5%増、C重油/10.4%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.7万kl減)。軽油の輸出は16.7万kl(前週比11.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は灯油、C重油が減少となり、その他の油種で増加した。前年比ではジェット、A重油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は74.5万kl(対前週2.2%増)と2週連続で増加した。ジェット9.7万kl(対前週573.5%増)、灯油28.8万kl(対前週13.9%減)、軽油58.9万

kl(対前週8.2%増)、A重油19.7万kl(対前週0.5%増)、C重油12.9万kl(対前週5.0%減)。

(単位:千kl)

	今週 (11/19 ~ 11/25)	前週 (11/12 ~ 11/18)	前週比	
ガソリン	745	729	▲ 16	(2%)
ジェット燃料	97	-20	▲ 117	(-585%)
灯油	288	334	▼ -46	(-14%)
軽油	589	544	▲ 45	(8%)
A重油	197	196	▲ 1	(1%)
C重油	129	136	▼ -7	(-5%)
合計	2,045	1,919	▲ 126	(7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月25日時点の在庫はガソリンが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは165.0万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては22.1万kl少ない。

灯油は295.1万kl、前週差11.2万kl減。前年に対しては25.8万kl多い。

軽油は132.8万kl、前週差5.6万kl減。前年に対しては15.6万kl少ない。

A重油は75.2万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては4.7万kl少ない。

C重油は181.8万kl、前週差3.0万kl減。前年に対しては5.9万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (11/25)	前週 (11/18)	前週比	
ガソリン	1,650	1,645	▲ 5	(0%)
ジェット燃料	811	877	▼ -66	(-8%)
灯油	2,951	3,063	▼ -112	(-4%)
軽油	1,328	1,384	▼ -56	(-4%)
A重油	752	764	▼ -12	(-2%)
C重油	1,818	1,848	▼ -30	(-2%)
合計	9,310	9,581	▼ -271	(-2.8%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月21日～27日のドル建て中東原油価格はわずかに値上がりしたが、為替レートは円高で、元売会社の卸価格建値は0.8円の値下がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額23.5円を加え、今週の補助金21.9円を差し引いた、11/30～12/6の実質卸価格は0.8円の値上げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月21日～27日の製品スポット市況は、11月14日～20日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物の横ばい、軽油・先物の値下がりを除き、他の油種・取引で値上がりした。

直近週(11/21～11/27)の陸上スポット価格平均値は、前週(11/14～11/20)比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油も1.3円の値上がり、軽油も0.6円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(11/21～11/27)に、前週(11/14～11/20)比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油も0.8円の値上がり、軽油0.4円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンと灯油は横ばい、軽油は0.3円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (11/21～11/27)	前週 (11/14～11/20)	前週比
スポット価格	レギュラー	77.9	77.3	▲ 0.6
	灯油	79.7	78.4	▲ 1.3
	軽油	78.0	77.4	▲ 0.6

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (11/21～11/27)	前週 (11/14～11/20)	前週比
先物価格	レギュラー	79.0	79.0	→ 0.0
	灯油	78.0	78.0	→ 0.0
	軽油	79.5	79.8	▼ -0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/21～11/27実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.6	→ 0.0	▲ 0.3
灯油	▲ 1.3	→ 0.0	▲ 0.7
軽油	▲ 0.6	▼ -0.3	▲ 0.2
A重油	▲ 0.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

11月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の174.0円、軽油は0.4円高の153.7円、灯油は18㊦ベースで3円高の2,085円(1㊦ベースでは0.1円高の115.8円)。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油は4週連続の値上がり、灯油は12週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが34道県、横ばいは長崎など6県、値下がりが7都府県だった。全国最安値は岩手県の168.0円、その次は新潟県の168.3円であった。他方、最高値は長崎県の183.0円。最も値下がりは千葉県(同1.4円安)、最も値上がりしたのは富山県(同1.8円高)だった。

次回調査時(12/4)のガソリンの小売価格は、実質卸価格の引き上げを反映して、値上がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (11/27)	前週 (11/20)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	174.0	173.7	▲ 0.3	23/9/4 186.5
	灯油	115.8	115.7	▲ 0.1	08/8/11 132.1
	軽油	153.7	153.3	▲ 0.4	08/8/4 167.4

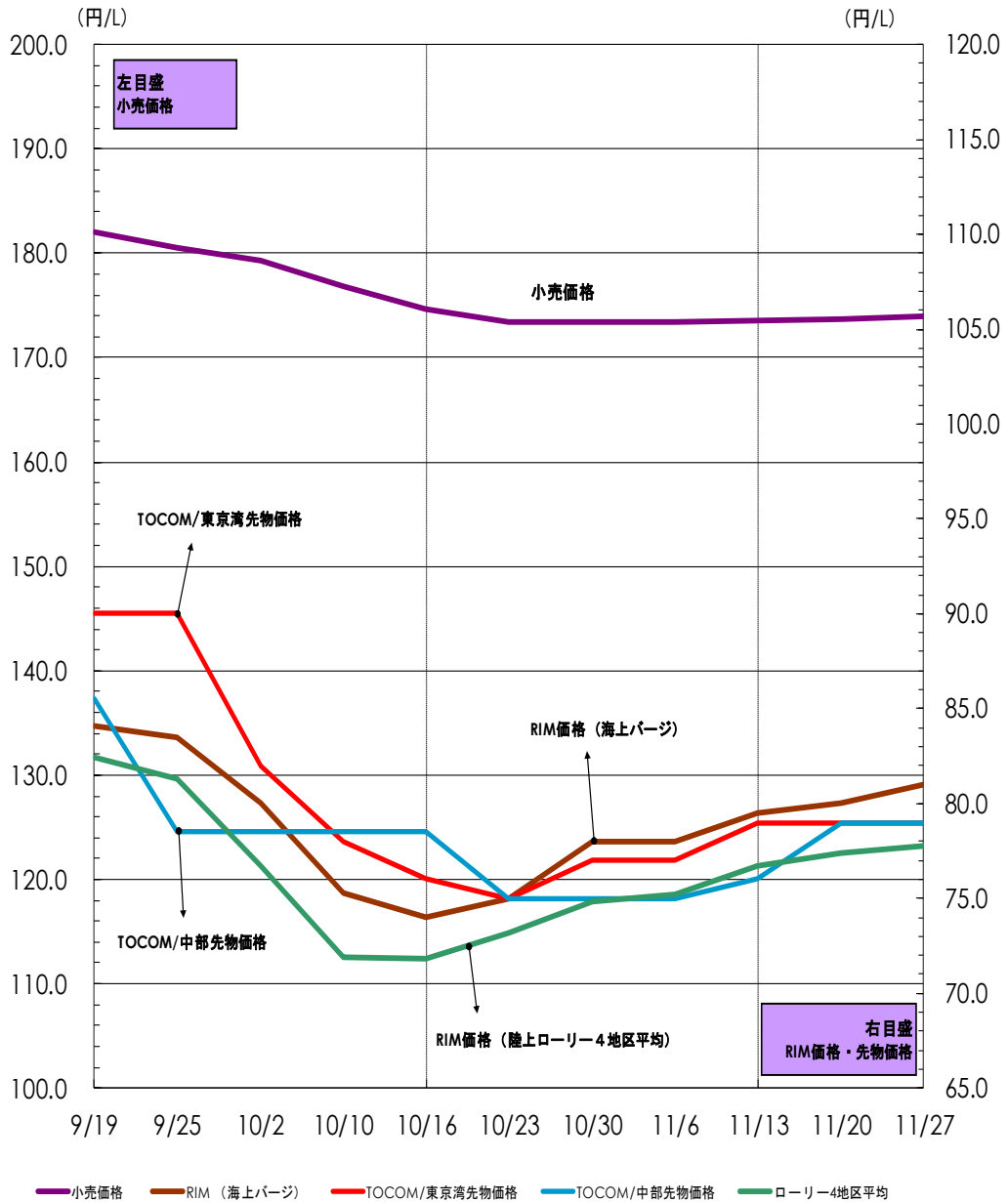
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2023/9/19 ~ 2023/11/27)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回 (2023第34号) の公表は、12/8 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁-HPIに掲載)。